

令和元年度 地域課題解決プログラム

# 廃棄物の適正排出のための 効果的な手法の検討 — 単身若年層のごみ分別マナーを 向上させるには

岩手大学人文社会科学部 環境経済論研究室

発表者 範佳偉

共同研究者 中田 秀樹 藤井 怜

指導教員 笹尾 俊明

1

## 報告概要

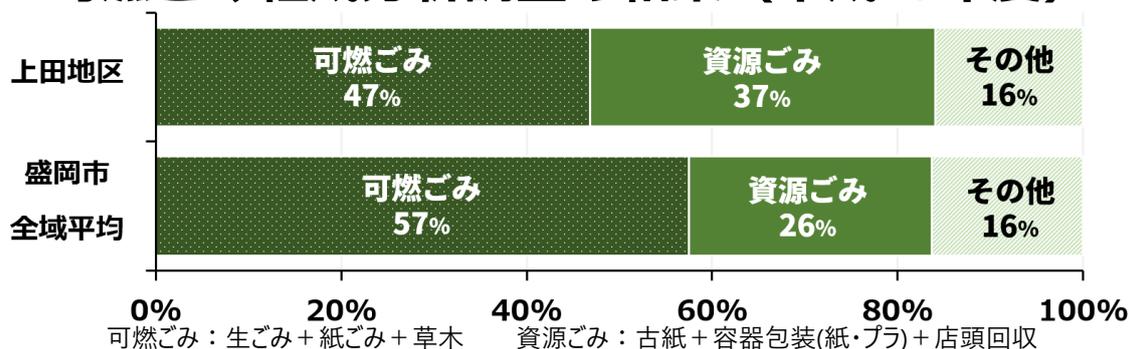
1. 研究の背景と目的
2. アンケート調査
3. 課題と対策

## 研究の背景

### ▶ 上田地区における分別状況の悪さ

- ▶ 資源ごみの混入
- ▶ 大部分が大学生（単身世帯・若年層）

### 可燃ごみ組成分析調査の結果（平成29年度）



出典：平成30年度資源とごみのコミュニティ推進地区別の状況について（盛岡市）

## 研究の目的

- ▶ 単身若年層による  
ごみ分別の現状と意識を確認
- ▶ 単身若年層を対象とした  
ごみ分別マナー向上策の考案

## アンケート調査の概要

### ▶ 岩手大学の学生における 資源とごみに関する生活実態 アンケート調査

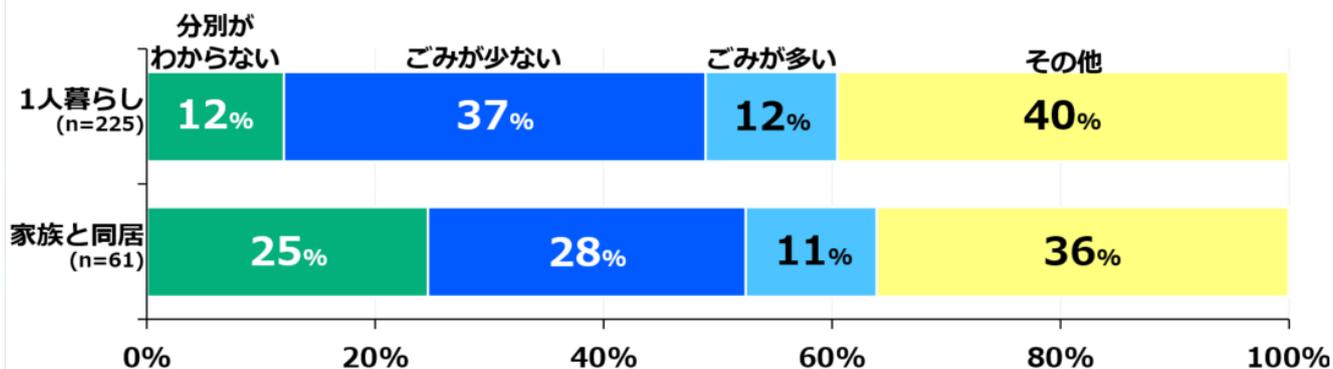
調査対象	岩手大学学生
調査時期	2019年11月6日～21日
調査手法	自記式アンケート調査
有効回答数	346部

## 仮説

- ① ごみの分別が不適切になりやすい  
**個人属性**（性別、世帯構成等）がある
- ② ごみの**収集時間**が  
大学生の生活リズムと合っていない
- ③ 分別に関する**情報**が周知されていない
- ④ ごみ問題・環境問題に対する**関心**がない

## 調査結果①

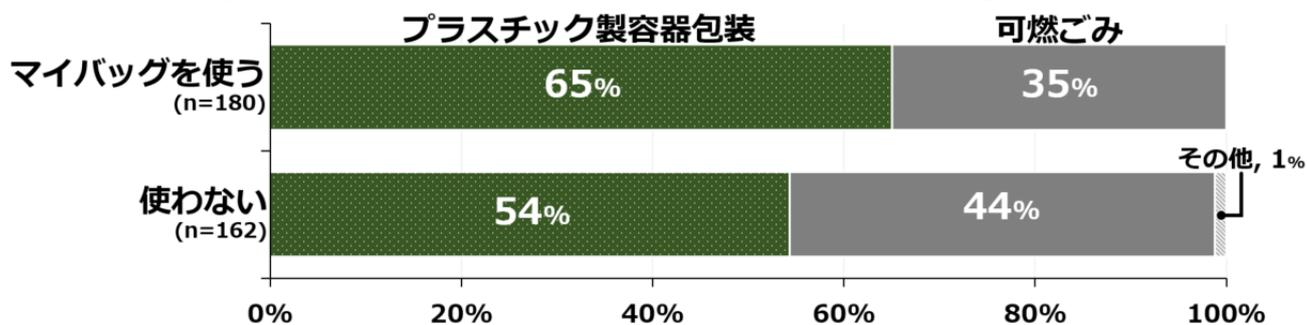
### ▶ 分別していない理由（居住形態別）



- ▶ 1人暮らしでは「ごみが少ない」がトップ
- ▶ 特に新聞・雑誌等が少なく、可燃ごみに混入

## 調査結果②

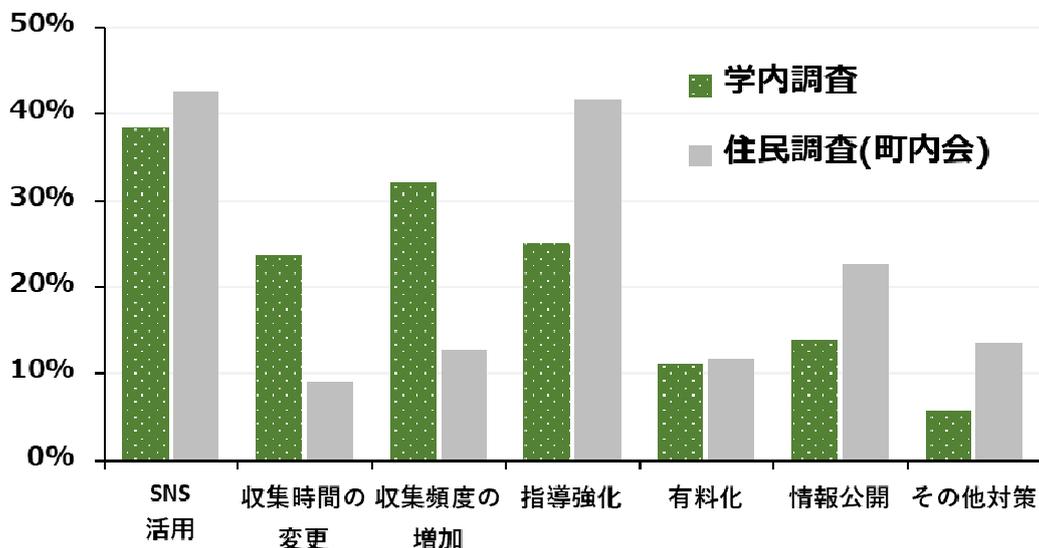
### ▶ 汚れた容器包装プラスチックの排出先



- ▶ 環境意識の高い学生の方が、プラ製容器包装として捨てる割合が高い

## 調査結果③

### ▶ 有効だと思うごみ分別対策



## 仮説の検証



① ごみ分別が不適切になりやすい

個人属性がある

○性別、出身地、居住形態  
×学年、世帯構成



② ごみ収集時間が

大学生の生活リズムと合っていない



③ 分別情報が周知されていない



④ 環境問題に対する関心がない

## 考えられる対策 ① 单身層向け

- ▶ **少量でも分別しやすくする工夫**
  - ▶ 小型家電のようなBOXを設置する 等
- ▶ **アパートの共有スペースの活用**
  - ▶ 集合ポスト付近に  
古紙の回収スペースを設置する 等
- ▶ **具体的な判断基準の提示**
  - ▶ コンビニ弁当の容器を例にする 等

## 考えられる対策 ② 若年層向け

- ▶ **収集時間帯の調整**
  - ▶ 夕方～夜間にごみを出せるように
- ▶ **SNS等を活用した情報発信**
  - ▶ 市の公式アカウントの設置だけでなく、  
学生支援課や大学生協との協力
  - ▶ 「盛岡市ごみの日アプリ」の  
知名度向上

## 今後の課題

- ▶ **対策の具体化**
  - ▶ 「仕掛学」「ナッジ」による知見の活用
- ▶ **実証実験の実施**
  - ▶ ごみ収集時間帯の変更（夕方～夜間）